

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん



**2016年度 年主題〈平和をともに〉**

**1・2歳児 3月主題 「すすんで」**

月のねがい

- ◎大きくなったことを神さまに感謝し、共に喜ぶ
- ◎自分でできることに喜びをもつ
- ◎戸外で早春の自然にふれ、探索する
- ◎保護者や保育者間の丁寧な連携の中で安心して進級する

**3・4・5歳児 3月主題 「希望」**

月のねがい

- ◎神さまの守りの中で大きくなったことを感謝し、安心と希望をもって歩みを進める
- ◎友だちと知恵や力を出し合いながら、工夫して遊ぶ
- ◎共に過ごしてきた仲間をかけがえのない大切な存在であると感じる



**友だちとの関わりの中で...**

子どもたちの遊びにはトラブルがつきものです。でも、上手く関われなかった経験を積んで、「そんなつもりでは無かったのに、ちゃんと言えばよかった。」という気付きにも繋がっていきます。

年長児がおゆうぎ会ごっこで遊んでいた時、年中児の1人がスーッとその輪に入り、真似をして遊んでいました。すると、ある年長児が衝動的に「ドン！」と突き飛ばしてしまったのです。彼にしてみれば、いきなり入ってきたことに対して、うまく受け入れられずに、けむたがる気持ちになってしまったのでしょう。年中児は突き飛ばされた時、「自分が先に声を掛ければよかったのかな？」という気持ちに繋がっていたらどうでしょうか。その場の空気を読み、暗黙の了解が必要なのかは、子どもにはとても難しいことですね。日々の遊びはトラブルの連続ですから、自分の気持ちを言葉で発信していくことができるようになることは重要なことです。

「高学年を担任していると、気持ちを伝えずに友だちと些細なことでトラブルになることが、昔からすると増えているように感じる。大きくなってからその力を身に付けるのには時間がかかる。これはある小学校の先生からお聞きした話です。このことから幼児期から言葉のやり取りで気持ちを伝えていくことの必要性を感じます。大人の世界でも然り。「この人とは気持ちが通じ合っているからあえて説明しなくてもいいかな～」と思っていたら、思いもよらない誤解を受けてしまったなどの事例は多くあることでしよう。人の行動にはいろいろな理由があることを知ることとなります。今年は「伝える」ということを意識して子どもたちと関わってきました。そして、それが生きていく上でとても大事なことだと改めて考えさせられた一年でした。来年度も、もう少し子どもたちと一緒に上手く伝えられる人となるよう努力していきたいものです。

園長

**今月の聖句「しゅはたからかにうたってあなたのことをよろこばれる」**

ゼパニヤ 3:17

このことばをしたためたゼパニア(神宝の意)という人は、紀元前6世紀ごろのイスラエル国の預言者でした。預言者の務めは国民の精神的指導者として、人の道を離れず、悪に染まらないように勧める人でした。

今月のことばの意味はゼパニア書全体を読まないで17節だけのことばでは正しく伝わりません。そこで、概要を説明しますと、生活の面でも道徳的な面でも退廃してしまったイスラエル民族を神は徹底的に懲らしめ、罰すると宣言した後で、もし、謙遜になって生き方を改め、神意に従うものとなれば、その人を「喜んで迎える」という内容です。放蕩に身を委ね人生の敗者となった者も、もし、自分の過ちに気付き、親のもとに帰り「赦してください。」と謝るなら、その放蕩息子(娘)のために親は大きな喜びをもってその子を受け入れるということです。「人生はやり直しがきく」というのがこの預言者が一番伝えたかったことです。

ところで、これを家庭教育の場に移して考えると、子どもの失敗を咎めてばかりではなく、「お父さん(お母さん)は、あなたが必ず立ち直ることができるよ」と、人生何回でもやり直しがきくことを、親自身も信じて、あきらめずに伝え続けることが肝心です。立ち直った子の姿を見る親は大いに喜ぶことができます。

前理事長 池田公榮



**3月の行事予定**

2日(木)	誕生会 (3月生まれ)
3日(金)	参観日 (3・4・5才)
4日(土)	参観日 (2才)
15日(水)	弁当の日
17日(金)	第59回卒園式 父母の会総会 弁当の日
22日(水)	修了式 (1号午前保育)
23日(木)	入園準備説明会
30・31日	休園日 (新年度準備の為)

**4月の行事予定**

7日(金)	始園式 (1号午前保育)
10日(月)～	1号新入園児慣らし保育
15日(土)	入園式・新年度クラス会 田植え、交通安全教室



旅立ちの春

三寒四温を経て、一雨ごとに暖かみを増してきました。余寒も過ぎ、弥生三月を迎えます。弥(いよいよ)よ・ますます(生(生い茂る)とは、文字通り草木が芽吹く季節。河津桜は満開を迎え、いよいよソメイヨシノの花がほころび始めました。一年の仕上げのとき、喜びと寂しさのときでもあります。

先日、南日本新聞の「ひろば」欄に、姉妹園の持久走大会での出来事が投稿されていました。生まれつき身体が弱く、支援の必要なお孫さんが、周りの暖かい応援の中で、四〇〇メートルを完走できた喜びが綴られていました。この世に生を受けてから心配続きの四年間だったことでしょう。懸命に、しかも淡々とゴールを目指す姿は、その日、そこに居合わせたすべての人に爽やかな感動を与えてくれました。投稿の最後にあったお祖父様の言葉「みんなありがとう」に、私たちこそお伝えしたい。「勇気をいただきました。ありがとうございます！」と。

乳幼児期は、「生涯にわたる人格形成の基礎が培われる」重要な時期であること教育・保育要領に示されています。意図された適切な環境の中で、あそびを中心とした活動を十分に経て、小学校以降の学習の場に入っていくことが大切です。時間を忘れて何かに熱中できることは学ぶ力の根っこだと思います。そして、簡単に諦めないで何度もチャレンジする根気が、学びの力を強めていくのではないのでしょうか。SI教育の白濱先生は、生き生きとした知力を育むには、次の五つの力が大事であると言われました。①自分からやる気になる②面倒くさいことを面倒くさがらないでやる③目的を持って取り組む④自分の意思や考えを主張できる⑤目的を持って取り組む。どれも非認知能力と呼ばれる目に見えない力の結集ですね。これらの能力を基に夢に向かって自分を肯定的に捉えられる子どもに育てて欲しいと思います。物事を真面目に捉えられる子どもに育てたい。様々な体験と他者との交わりの中で培われます。これから益々様々なことに挑戦し、主体的な探究心を育てていくことは、子どもたちを忍耐強く、温かく見守り育てていくことは、希望に胸を膨らませて春を待つ気持ちに通じます。多様な時代にあっても、一番大切なものは、いつも目に見えないのだということを忘れずにいてほしいです。金子みすゞの詩にあるように、昼の星やたんぽぽの根のごとく、見えないけれど確かに在る神さまの大きな愛と人々の愛に満たされ、心優しいひかりの子として歩むことが出来ますように祈っております。この一年間、保護者の方々には色々な面でご支援ご協力を戴き、誠にありがとうございました。多くの足らざるところをお詫びし、心より感謝申し上げます。

学園長

**できたらカッコいい だいたいやりかた ③**

いよいよ3がっき！くじらグループのおともだちは、すこしずつ1ねんせいになるじゅんぴをしよう！できなくてもだいじょうぶだよ！できたらカッコいいし、しているとべんりなこと。じぶんでかながえてチャレンジしてみよう！

**あじふのしかた**

あじふの あいさつは、 「おはよう」じゃなくって...

**あじふのしかた**

あじふの あいさつは、 「おはよう」じゃなくって...

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん